

# ルツ記

イ士二・二六　ホ士三・三〇　チ書二四・一五　ヲ創三八・一一　申　一〇  
ロ創二二・一〇、二六　へ出四・三一　路一　リ得一・五、二・二〇　二五・五  
二　王下八・一　六八　又提後一・二六、一七、　ワ士二・一五　伯一九  
ハ士二七・八　ト詩一三三・二五　太　一八  
ニ創三五・一九　六・一一　ル得三・一　三八・二、三九・九、

## 第一章

一　士師の世ををさむる時にあたりて國に饑饉ありければ一箇の人その妻と二人の男子をひきつれ  
二　てベテレヘムユダを去りモアブの地にゆきて寄寓る　その人の名はエリメレクその妻の名はナオ  
三　ミその二人の男子の名はマロンおよびキリオンといふベテレヘムユダのエフラテ人なり彼等モアブの地にいたり  
四　て其處にをりしが　ナオミの夫エリメレク死てナオミとその二人の男子のこさる　彼等おのおのモアブの  
五　婦人を妻にめとるその一人の名はオルバといひ一人の名はルツといふ彼處にすむこと十年許にして　マロンと  
六　キリオンの二人もまた死り斯ナオミは二人の男子と夫に後れしが  
七　モアブの地にて彼エホバその民を眷みて食物を之にたまふと聞ければその媳とともに起てモアブの地より  
八　歸らんとし　その在ところを出たりその二人の媳これとともにあり彼等ユダの地にかへらんと途にすゝむ  
九　爰にナオミその二人の媳にいひけるは汝らはゆきておのおの母の家にかへれ汝らがかの死たる者と我とを善く  
十　待ひしごとくにねがはくはエホバまたなんぢらを善くあつかひたまへ　ねがはくはエホバなんぢらをして各々  
十一　その夫の家にて安身處をえせしめたまへと乃ちかれらに接吻しければ彼等聲をあげて哭き　之にいひけるは  
十二　我ら汝とともに汝の民にかへらんと　ナオミいひけるは女子よ返れ汝らなんぞ我とともにゆくべけんや汝らの  
十三　夫となるべき子猶わが胎にあらんや　女子よかへりゆけ我は老たれば夫をもつをえざるなり假設われ指望あり  
十四　といふとも今夜夫を有つとも而してまた子を生むとも　汝等これがために其子の生長までまちをるべけんや  
十五　之がために夫をもたずしてひきこもりをるべけんや女子よ然すべきにあらず我はエホバの手ののぞみてわれを攻





ヨ詩一二九・七、八路 夕得一・二二  
一・二八 撒後三、レ律前二五・二三  
一六 夕得一・二四、一六、ネ得一・二六詩一七、ナ創三三・一五 律前  
八、三六・七、五七 一・一八  
一、六三・七 律前二五・四一  
ム創三四・三 士一九 夕得二・一八

ボアズ、ベテレへムより來りその刈者等に言ふねがはくはエホバ汝等とともに在せと彼等すなはち答てねがはく  
はエホバ汝を祝たまへといふ 五 ボアズその刈者を督る僕にいひけるは此は誰の女なるや 六 刈者を督る人こた  
へて言ふ是はモアブの女にしてモアブの地よりナオミとともに還りし者なるが 七 いふ請ふ我をして刈者の後に  
したがひて禾束の間に穂をひろひあつめしめよと而して來りて朝より今にいたるまで此にあり其家にやすみし間  
は暫時のみ

八 ボアズ、ルツにいひけるは女子よ聽け他の田に穂をひろひにゆくなかれ又此よりいづるなかれわが婢等に  
離ずして此にをるべし 九 人々の刈ところの田に目をとめてその後にしたがひゆけ我少者等に汝にさはるなかれ

一〇 と命ぜしにあらずや汝渴く時は器の所にゆきて少者の汲るを飲めと 彼すなはち伏て地に拜し之にいひけるは  
我如何して汝の目の前に恩恵を得たるかなんぢ異邦人なる我を顧みると ボアズこたへて彼にいひけるは汝が

夫の死たるより已來 姑に盡したる事汝がその父母および生れたる國を離れて見ず識ずの民に來りし事皆われに  
聞えたり 二 ねがはくはエホバ汝の行爲に報いたまへねがはくはイスラエルの神エホバ即ち汝がその翼の下に身

を寄んとて來れる者汝に十分の報施をたまはんことを 三 彼いひけるは主よ我をして汝の目の前に恩をえせしめ  
たまへ我は汝の仕女の一人にも及ざるに汝かく我を慰め斯仕女に懇切に語りたまふ 四

ボアズかれにいひけるは食事の時は此にきたりてこのパンを食ひ且汝の食物をこの醋に濡せよと彼すなは  
ち刈者の傍に坐しければボアズ烘麥をかれに與ふ彼くらひて飽き其餘を懷む 五 かくて彼また穂をひろはんとて

起あがりければボアズその少者に命じていふ彼をして禾束の間にても穂をひろはしめよかれを羞しむるなかれ





ル結一六・八 カ得一・八  
 ヲ得二・二〇、三・一二 ヨ得一二・四  
 ワ得二・二〇 タ得三・九  
 レ得四・一 ツ士八・二九耶四・二 三二 哥後八・二二 ラ得三・二二  
 ソ申二五・五 得四・ ネ羅一二・一七、一四 撒前五・二二  
 五 太二二・二四 二六 哥前一〇・ ナ詩三七・三、五 三二・二二  
 ム王上二一・八 撒 三一・二二

八 往て麥を積る所の傍に臥す是に於て彼潜にゆきその足を掀開て其處に臥す 夜半におよびて其人畏懼をおこし

九 起かへりて見るに一人の婦その足の方に臥したれば 汝は誰なるやといふに婦こたへて我は汝の婢ルツなり

一〇 汝の裾をもて婢を覆ひたまへ汝は贖業者なればなり 一〇 ポアズいひけるは女子よねがはくはエホバの恩典なんぢ

二 いたれ汝の後の誠實は前のよりも勝る其は汝貧きと富とを論ず少き人に従ふことをせざればなり 二 されば

女子よ懼るなかれ汝が言ふところの事は皆われ汝のためになすべし其はわが邑の人皆なんぢの賢き女なるをしれ

二二 ばなり 一ニわれ 我はまことに贖業者なりと雖も我よりも近き贖業者あり 一三こんや 今夜は此に住宿れ朝におよびて彼もし

汝のために贖ふならば善し彼に贖はしめよ然ど彼もし汝のために贖ふことを好まずばエホバは活く我汝のために

贖はん朝まで此に臥せよと 一四 ルツ朝までその足の方に臥て誰彼の辨がたき頃に起あがるポアズ此女の禾場に來りしことを人にしらしむ

一五 べからずといへり 一五しか 而していひけるは汝の著る袷衣を將きたりて其を開げよと即ち開げければ大麥六升を量り

一六 て之に負せたり斯して彼邑にいたりぬ 一六こい 爰にルツその姑の許に至るに姑いふ女子よ如何ありしやと彼すなはち

一七 其人の己になしたる事をことごとく之につけて 一七しか 而していひけるは彼空手にて汝の姑の許に往くなかれといひ

一八 て此六升の大麥を我にあたへたり 一八しうとめ 姑いひけるは女子よ坐して待ち事の如何になりゆくかを見よ彼人今日

その事を爲終ずば安んぜざるべければなり

### 第四章

一 爰にポアズ門の所にのぼり往て其處に坐しけるに前にポアズの言たる贖業者過りければ之に言ふ  
 二 某よ來りて此に坐せよと即ち來りて坐す 二 ポアズまた邑の長老十人を招き汝等此に坐せよと

一 いひければ則ち坐す 時に彼その贖業人にいひけるはモアブの地より還りしナオミ我等の兄弟エリメレクの地  
 二 を賣る 我汝につげしらせて此に坐する人々の前わが民の長老の前にて之を買へと言んと想へり汝もし之を  
 三 贖はんとおもはゞ贖ふべし然どもし之を贖はずば吾に告てしらしめよ汝の外に贖ふ者なければなり我はなんぢの  
 四 次なりと彼我これを贖はんといひければ 五 ボアズいふ汝ナオミの手よりその地を買ふ日には死者の妻なりし  
 六 モアブの女ルツをも買て死者の名をその産業に存すべきなり 六 贖業人いひけるは我はみづから贖ふあたはず  
 七 恐くはわが産業を壊はん汝みづから我にかはりてあがなへ我あがなふことあたはざればなりと  
 八 昔イスラエルにて物を贖ひ或は交易んとする事につきて萬事を定めたる慣例は斯のごとし即ち此人鞋を脱  
 九 て彼人にわたせり是イスラエルの中の證なりき 八 是によりてその贖業人ボアズにむかひ汝みづから買ふべしと  
 一〇 いひてその鞋を脱たり 九 ボアズ長老および諸の民にいひけるは汝等今日見證をなす我エリメレクの凡の所有  
 一〇 およびキリオンとマロンの凡の所有をナオミの手より買たり 一〇 我またマロンの妻なりしモアブの女ルツを買て  
 妻となし彼死者の名をその産業に存すべし是かの死者の名をその兄弟の中とその處の門に絶ざらしめんため  
 二 たり汝等今日證をなす 二 門にをる人々および長老等いひけるはわれら證をなす願くはエホバ汝の家にいるとこ  
 三 ろの婦人をして彼イスラエルの家を造りなしたるラケルとレアの二人のごとくならしめたまはんことを願くは  
 四 汝エフラタにて能を得ベテレヘムにて名をあげよ 三 ねがはくはエホバが此若き婦よりして汝にたまはんと  
 五 の子に由て汝の家かのタマルがユダに生たるペレズの家のごとくなるにいたれ 五 斯てボアズ、ルツを娶りて妻となし彼の所に  
 六 斯てボアズ、ルツを娶りて妻となし彼の所にいりければエホバ彼を孕ましめたまひて彼男子を生り

イ創二三・一八 二創三八・八 申二五 ホ得三・二二、二三 七時一二七・三、一二 又創三五・一六、一九 二・四 太一・三 五  
 口耶三三・七八 五、六 得三・一三 八申二五・七、九 八・三 又母前二・二〇 得三・一 得三・一  
 八利二五・二五 太二二・二四 ト申二五・六 申二五・九 申二五・九 代上 九 創二九・三一、三三



ヨ路一・五八 羅二二 五五・二二  
 ・二五 レ母前一・八  
 夕例四五・一一 詩 ソ路一・五八、五九  
 ヲ代上二・四 太一・三 ラ代上二・一五 太一  
 本民一・七  
 ナ太一・四  
 ・六

一四 婦女等ナオミにいひけるはエホバは讚べきかな汝を遺すして今日汝に贖業人あらしめたまふその名イスラエ  
 一五 ルに揚れ 彼は汝の心をなぐさむる者汝の老を養ふ者とならん汝を愛する汝の媳即ち七人の子よりも汝に  
 一六 善もの之をうみたり ナオミその子をとりにて之を懐に置き之が養育者となる その隣人なる婦女等これに  
 一七 名をつけて云ふナオミに男子うまれたりと其名をオベデと稱り彼はダビデの父なるエサイの父なり  
 一八 儲ペレヅの系圖は左のごとしペレヅ、ヘヅロンを生み 一九 ヘヅロン、ラムを生み ラム、アミナダブを生  
 二〇 み アミナダブ、ナシヨンを生み ナシヨン、サルモンを生み 二一 サルモン、ボアズを生み ボアズ、オベデを  
 二三 生み オベデ、エサイを生み エサイ、ダビデを生り

ルツ記をばり